

平成 28 年度

佐賀県高度情報化推進協議会

第4回幹事会資料



日時：平成29年3月23日(木) 午後2時00分～
場所：メートプラザ佐賀2階 大会議室

本日の次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議題

(1) 今年度下半期事業報告（未報告・実施中分）について

【報告事項】

(2) 次期中期推進項目（案）について

【決議事項】

(3) 来年度事業の具体的方向性について

【決議事項】

(4) 本協議会の今後の方向性の検討について

【決議事項】

(5) 次期幹事、各Gについて

【決議事項】

4 その他

来年度総会の日程調整、第1回幹事会、
定期総会・第1回ICT利活用講演会について

会議の目的

議題(1) [報告事項]

下半期事業の実施状況を確認する

議題(2) [決議事項]

次期中期推進項目(案)を決定する

議題(3) [決議事項]

来年度事業計画策定に当たっての具体的な方向性(既存事業の存廃、新規事業候補)を決定する

議題(4) [決議事項]

本協議会の今後の方向性検討の進め方について決定する

議題(5) [決議事項]

幹事、各Gの応募状況を確認するとともに、今後の取扱い等を決定する

議題(1)

今年度下半期事業 (未報告・実施中分) 報告について 【報告事項】

下半期事業の中での未報告・実施中分の
実施状況を確認する

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

本日の報告事項

【実施済事業】

事業名	実施日	実施場所
①ICT利活用取組事例視察	2月1日	長崎県
②情報リテラシー・セキュリティ事業		
1) ネットの安全・安心けいはつコンクール ・表彰式 ・受賞作品展示	2月18日 2月14日～22日	アバンセ アバンセ
2) 情報モラル啓発イベント ・作品展示 ・ICT相談ブース ・クイズ、アンケート	2月25日～26日	モラージュ佐賀
③ICT利活用促進補助事業 【補助金交付3団体より報告】		
④ICT利活用促進調査研究 【羽石幹事より報告】		

【経過報告(継続中事業)】

⑤買物困難者支援実証事業

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

①ICT利活用取組事例視察

視察の概要

[視察日] 平成29年2月1日(水曜日)

[参加者] 16名 ※会員11名+事務局(佐賀県)5名

[視察先・内容等]

視察先	内容	説明者	時間
長崎県立大学	サイバーセキュリティ 演習室(仮称)について	情報セキュリティ学科教授 加藤雅彦氏	13時 ~14時
	ながさきICT戦略の策定について	長崎県情報政策課課長 大庭茂雄氏	14時 ~14時半
扇精光ソリューションズ(株)	「長崎くんちナビ」と 応用サービスについて	空間情報開発課次長 山口文春氏	15時 ~16時

[成果] (参加者アンケートより)

- ・会員単体では視察の受け入れが難しい視察先への視察を可能とした。
- ・産・学・官それぞれの先端事例の視察先
→ 幅広い会員に、自らの事業や研究活動に活かし得る知見を提供

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

①ICT利活用取組事例視察

視察の内容・所見等①

I サイバーセキュリティ演習室（仮称）について

◎演習ルーム・システムのコンセプト・特徴

- ◆「リアリティのある演習環境」
- ◆「セキュリティに限定しない、汎用性のあるコンピュータ設備」
- ◆「イベントやセミナーにも活用可能な設備構成」

◎今後の利活用予定

- ◆学術情報ネットワーク（SINET5）※1と接続し、他大学や高専等と共同研究
- ◆企業との共同研究環境として製品・サービス開発
- ◆社会人等を対象とした情報セキュリティのハンズオン演習※2
- ◆CTF (Capture The Flag) ※3 等の各種イベント

※1：全国の大学・研究機関等の情報通信ネットワーク ※2：体験型学習のこと

※3：情報セキュリティの技術を競う競技・ゲーム

☆参加者の感想

セキュリティに関する見える化等、先端の技術を拝見させて頂き、非常に興味深いものでした。今後需要が見込めるセキュリティ分野のスペシャリストの育成について、期待できるものでした。



議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

①ICT利活用取組事例視察

視察の内容・所見等②

ⅡながさきICT戦略の策定について（官民協働クラウドの活用）

◎官民協働クラウド構想の発想の原点

- ◆来年1月に庁舎とともに一新されるサーバー
ルームを県庁だけで使うのは勿体ない

→「官」の資産を「民」に共有してもらうことで、何かできることがあるのではないかと

◎官民協働クラウド構想の主な特徴

- ◆産学官のもつビッグデータの共通の格納場所
としての利用
- ◆学官のアイデアを活かせるためのオープンデータを県庁が提供



☆参加者の感想

県が整備・所有するインフラやオープンデータを、地場IT企業の活性化のために提供する取組みに興味を持った。投資力が十分でない中小企業であっても、技術力があれば新しい事業にチャレンジできる仕組みは、地域でのICT利活用の促進に効果があるのではないかと感じた。

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

①ICT利活用取組事例視察

視察の内容・所見等③

Ⅲ「長崎くんちナビ」と応用サービスについて

◎サービス提供の背景

- ◆期間中、どこを移動しているか不明な演し物の位置情報が提供できないか？

→ GPS機能付モバイルデバイスを活用したサービスを開発した

◎サービスの仕組み

- ◆スマホを持ったアルバイトが演し物に随行し、アプリが位置情報を自動送信することで、グーグルマップをベースとした地図に演し物の位置情報が表示される



☆参加者の感想

情報通信部門は、グループ各社向けのICTサービス提供も役割の一つとしてあります。特にスマートデバイスを活用したサービスは最近注目されている技術であり、その活用事例の一つとして参考になりました。

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

①ICT利活用取組事例視察

参加者のアンケート結果より

[開催時期について]

この時期が良い 8名

他の時期が良い 3名 (11月、8月、4~11月)

[視察内容は、今後活かせるものか?]

視察内容	大変活かせる	活かせる可能性有	活かせる可能性少	活かせるものでない
サイバーセキュリティ演習室 (仮称)について	2	6	3	0
ながさきICT戦略の策定について (官民協働クラウドの活用)	1	9	1	0
「長崎くんちナビ」と応用サービス について	2	7	2	0

※参加者全員が「大変活かせる」「活かせる可能性あり」のいずれかに回答

※産官学それぞれからの参加であり、視察内容についての受け止め方は様々であった

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

①ICT利活用取組事例視察

参加者の感想(視察内容以外について) ※主なものを抜粋

- ◆ICTにつきましては、利活用による効率化・サービス向上に加え、抜本的な業務改革等による企業の競争力強化に欠かせないものとして近年注目を集めております。行政や企業などにおける、より戦略的なICTの利活用についても学んでいければと思います。
- ◆実地での施設見学や事例研修はリアル感があり大変参考になります。一企業では視察の受入れが難しいケースも多く、高情協の活動として視察に参加でき、意義深いものがありました。
- ◆時間と手間、経費を使っただけでなく、せっかくの研修ですから、ぜひ今後の活動に活かせるようにICT利活用の推進につなげていけるようにしたいと思います。
- ◆参加者同士のコミュニケーションを図る場が少なかったように感じます。
- ◆日帰りでスケジュールしていただいた点は非常に助かりました。

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

②情報リテラシー・セキュリティ事業

1) ネットの安全・安心けいはつコンクール（実施済）

アバンセにて『表彰式』を開催。併せて『受賞作品展示』も行いました。

表彰式の概要	
日時	平成29年2月18日（火） 10時～12時
会場	アバンセホール
特記	※応募作品約400点 ※優秀作品約40点を表彰 ※多久ミュージカルカンパニーが、情報モラル啓発劇を披露



佐賀県知事賞授賞



情報モラル啓発劇



アバンセ展示ギャラリーにおける作品展示

◇2月14日～22日の期間、アバンセ内の展示ギャラリーにおいて、受賞作品展示も行った

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

②情報リテラシー・セキュリティ事業

1) ネットの安全・安心けいはつコンクール (実施済)

【新事業】モラージュ佐賀にて、情報モラル啓発イベントを開催

期間	平成29年2月25日 (土) ~26日 (日)
場所	モラージュ佐賀南館 1階
内容	①受賞作品展示 ②情報モラル啓発クイズ・アンケートの実施 ③ICT相談窓口
特記	◇多くの方に、受賞作品をご覧頂けた ◇情報モラルクイズ・アンケートに約200名が回答 ◇ICT相談窓口には、6件の相談 ＜相談概要＞ <ul style="list-style-type: none">・ 課金・ 不当請求・ ネットでの契約関係・ デバイスの機能・ 子ども (幼児) の動画視聴・ 相談窓口 (ほっとネットライン) について



議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

オンラインアンケート画面 (Googleのサービスを利用)

インターネット使用状況調査

Q1 性別

- 男性
- 女性
- 無回答

Q2 あてはまるものを選んでください。

- 未就学
- 小学1年～2年
- 小学3年～4年
- 小学5年～6年
- 中学生
- 高校生
- 専門学校・大学生
- 一般

Q3 何を使ってインターネットしていますか？ (複数選択)

- パソコン
- スマートフォン
- タブレット
- ゲーム機
- その他: _____

Q4 どんなことに使っていますか？ (複数選択)

- ゲーム
- 調べもの
- 学習
- 動画
- 友達とのやり取り
- 家族とのやり取り
- 日記のかわり
- その他: _____

「タップで選択」



「送信をタップ」



「自動で集計」

Q5 何才ぐらいから使っていますか？

- 0～5才
- 6～8才
- 9～12才
- 13～15才
- 16才以上

Q6 オンラインゲームで課金したことがありますか？

- ある
- ない

送信

1/1 ページ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

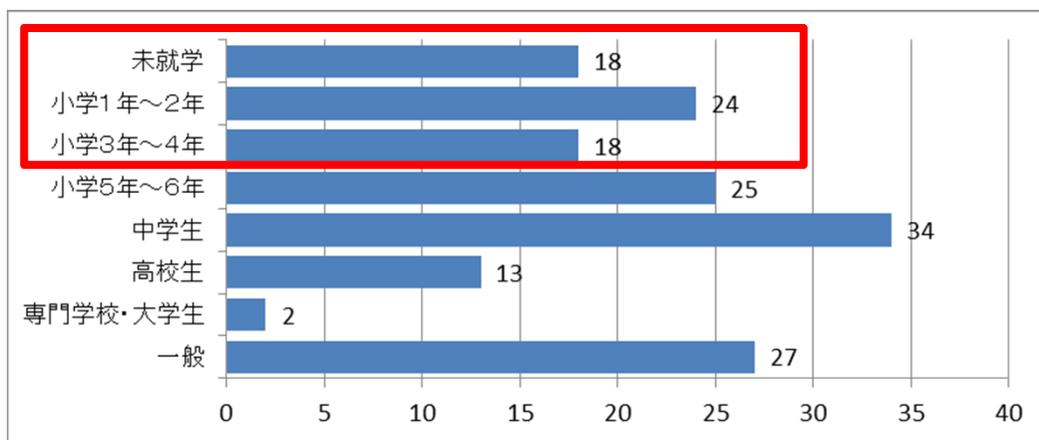
②情報リテラシー・セキュリティ事業

1) ネットの安全・安心けいはつコンクール (実施済)

<アンケート結果より (その1) >

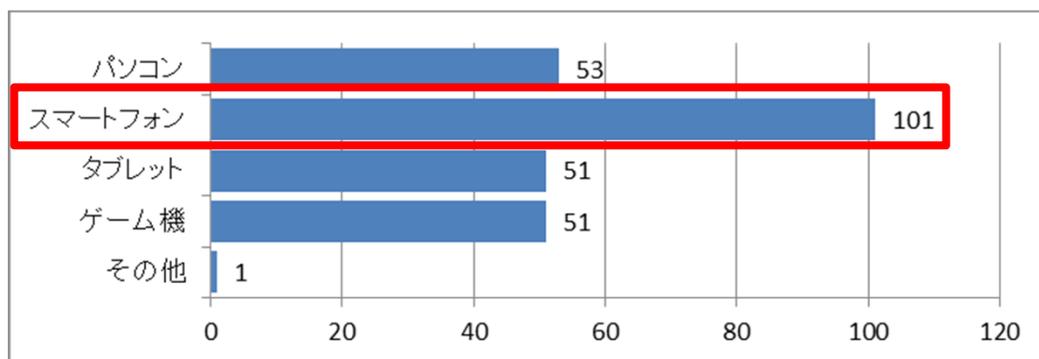
◆総回答数 161 (男性71・女性90)

◆属性



➢ 想定対象(スマホを持ち始める年齢層)の「小学高学年から中学生」は59名(37%)に留まり、「小学4年生以下」(親子連れ)が60名(37%)と多かった

◆何を使ってインターネットをしているか? 【複数回答可】



➢ 全体的にスマホでの利用が多い。中学生以上は自分のスマホ、小学生以下は親のスマホを使うという回答が目立つ

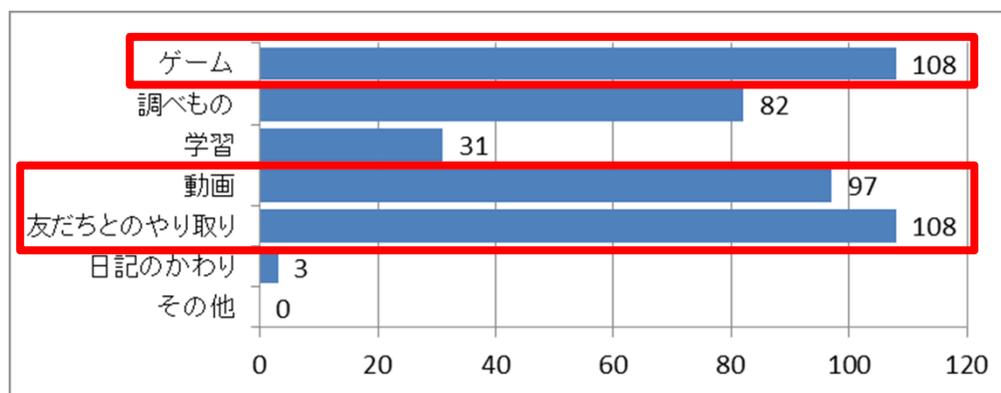
議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

②情報リテラシー・セキュリティ事業

1) ネットの安全・安心けいはつコンクール (実施済)

<アンケート結果より (その2) >

◆どんなことに使っているか? 【複数回答可】



➢「ゲーム」「友だちとのやり取り」「動画視聴」がトップ3で、「調べもの」より多い数値を示した。ゲーム・動画は世代を問わないが、「友だちとのやり取り」は中学生以上が多い

◆何才くらいから使っているか?

行ラベル	0~5才	6~8才	9~12才	13~15才	16才以上 (空白)	総計
未就学	16					2
小学1年~2年	4	18				2
小学3年~4年	3	8	5			2
小学5年~6年	1	5	17			1
中学生	1	4	18	10		33
高校生	1		2	6	4	13
専門学校・大学生	1	1				2
一般			2	5	18	2
(空白)		1	1			2
総計	27	37	45	21	22	9

➢一般の人は、高校生以上からの利用が多いが、「小学高学年から中学生」は小学校の中~高学年からの利用が目立つ。

確かに、インターネット利用開始年齢は下がってきていることが読み取れる

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

②情報リテラシー・セキュリティ事業

1) ネットの安全・安心けいはつコンクール (実施済)

<アンケート結果より (その3) >

◆オンラインゲームで課金したことがあるか？

ある…25(17%) ない…122(83%)

行ラベル	ある	ない	(空白)	総計
未就学			18	18
小学1年～2年			20	24
小学3年～4年	2	16		18
小学5年～6年	4	17	3	24
中学生	6	24	3	33
高校生	4	9		13
専門学校・大学生	1	1		2
一般	8	15	4	27
(空白)		2		2
総計	25	122	14	161

➤課金経験者は17%と低い数値となっているが、その中でも小学高学年～高校生で課金経験者の56%を占めていることが、特徴的

◆ネットでいやな目にあったことはあるか？

ある…9(6%) ない…138(94%)

行ラベル	ある	ない	(空白)	総計
未就学			18	18
小学1年～2年			20	24
小学3年～4年		18		18
小学5年～6年		21	3	24
中学生	2	28	3	33
高校生	1	12		13
専門学校・大学生		2		2
一般	6	17	4	27
(空白)		2		2
総計	9	138	14	161

➤ネットでいやな目にあったことがあるのは、中学生以上のみの回答

⇒ 中学生からコミュニケーションツールとして利用し始めることが要因か？

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

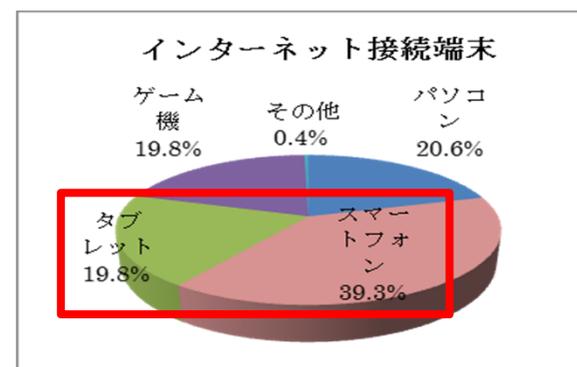
②情報リテラシー・セキュリティ事業

1) ネットの安全・安心けいはつコンクール (実施済)

<ITサポートさが(業務受託団体)より総括(成果報告)>

◆アンケートの実施について

被験者属性	<ul style="list-style-type: none"> 小学生以下が半数超 商業施設内での実施という性質上、小学生以下の子どもとその保護者の組合せが最も多かった
結果の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ネット接続端末について【右グラフ・表】 <ul style="list-style-type: none"> スマホとタブレットを合わせて60%弱 → ネット接続の主流がPCからスマホ・タブレットに移行していることが明白 若年層では、ゲーム機による接続も多い ネット接続の目的について【スライド16】 <ul style="list-style-type: none"> 「ゲーム」と並んで「友だちとのやりとり」がトップで、ネット利用でのコミュニケーションが浸透していることが分かった
所見	<ul style="list-style-type: none"> より早い段階での啓発が必要なることが明らかに 若年層への啓発について考える時、子どもたちへの啓発に併せて、保護者世代への働きかけの重要性が明らかになった



学齢別使用端末

属性	スマホ	タブレット	ゲーム機	その他
未就学(18)	12	6	2	0
小1~2(24)	10	9	7	0
小3~4(18)	6	7	14	0
小5~6(25)	13	7	8	1
中学生(34)	20	15	14	0
高校生(13)	12	4	2	0
学生(2)	2	0	2	0
一般(27)	26	3	2	0

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

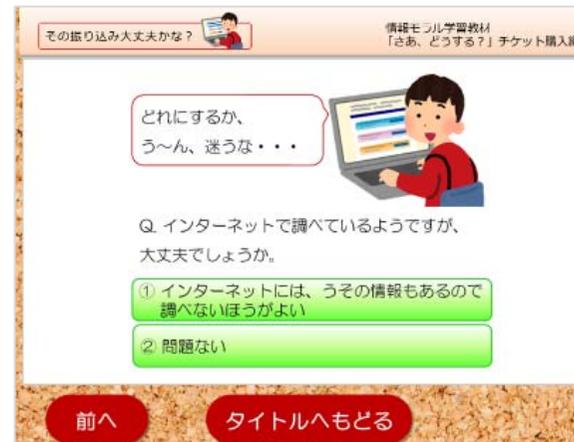
②情報リテラシー・セキュリティ事業

1) ネットの安全・安心けいはつコンクール (実施済)

<ITサポートさが(業務受託団体)より総括(成果報告)>

◆ロールプレイング型情報モラル教材体験について

実施して の顕著な 特徴	<ul style="list-style-type: none">◇小学生児童に対して<ul style="list-style-type: none">・「プリペイドカード」教材を中心に実施<ul style="list-style-type: none">→ 使用経験者が相当数存在→ 今後、この傾向は顕著になると思われる◇中学生世代に対して<ul style="list-style-type: none">・ネットで調べものをする際の注意事項で、「ネットは嘘が多いから調べない方が良い」を選択した被験者多数<ul style="list-style-type: none">→ ネットの“危険性”を啓発しているとの予測から選択したものと考えられ、調査啓発事業への無意識の迎合があったと思われる
所見	<ul style="list-style-type: none">◇電子マネーの若年層への浸透が加速されると考えられる◇情報モラル啓発事業の今後の方向性としては、危険性だけの啓発だけでなく、情報の取捨選択の重要性についての啓発が必要と言える



議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

②情報リテラシー・セキュリティ事業

1) ネットの安全・安心けいはつコンクール (実施済)

<ITサポートさが(業務受託団体)より総括(成果報告)>

◆商業施設内での相談事業について

相談件数 対応内容	◇相談件数は6件。少なかったが、Wi-Fi設置やクーリングオフに関する質問等、 相談内容は多岐にわたった。 ◇主な相談対応	
	Q (相談内容)	A (回答内容)
	不当請求の画面が出ても本当にそのままでよい？	よいです。アクションを起こすと個人情報（電話番号・メールアドレス等）が相手に渡ってしまうので、絶対に連絡しないでください。
	中学生の子どもは親の言う事を聞かないので、相談窓口（ほっとネットライン）に連絡したらいいですか？	年頃の子は、なかなか親には相談しないので、さりげなく相談窓口を案内してください。メール・電話・ラインで受け付けますので、気軽にご利用ください。
	(2歳の)子どもに歯磨きの時に動画を見せているが、よいだろうか？	しっかりと目的を決めて使っておられるので、とても良いと思います。子どもさんもその時間が楽しみになると良いですね。
所見	◇相談者は、クイズをする子どもの同伴者の大人が主だった。 ◇オープン形式だったので、深刻な相談内容ななかった。人目を気にせずに相談できる 窓口の必要性を改めて感じた。 ◇「ほっとネットライン」の周知ができた。困った時に相談できる場所を知っていることが 重要で、大きなトラブルを未然に防ぐことにもなる。	

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

②情報リテラシー・セキュリティ事業

2)佐賀県サイバーセキュリティ対策シンポジウム(実施済)

高情協は、『後援者』として協力

2月14日(火)アバンセホールにて、主に県内中小企業経営者向けにシンポジウムを開催されました。

[概要]

講演Ⅰ	<p>[演題] サイバー空間の攻撃側と防御側の関係性に着目した状況認識</p> <p>[講師] 名和 利男 氏 (株)サイバーセキュリティ研究所</p> <p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none">・攻撃側の進歩に対し、防御側のスキルが追い付いていない・対策には、経営層の理解が必要不可欠・盗まれるような情報はないと思い込んでいた中小企業のPCが、長年、マルウェアに感染し、情報が流出していた事例
講演Ⅱ	<p>[演題] インターネットバンキング不正送金事案の現状と対策</p> <p>[講師] 西 貴 氏 (株)佐賀銀行</p>
トークセッション	<p>[テーマ] 明日から実践するサイバーセキュリティ対策</p> <p>[内容] 「県内企業の現状と課題」 「その対策と支援体制」について討論</p>
所感	<p>「企業におけるセキュリティに対する考えが変わった」という参加者の声が聞かれ、主に中小企業における危機意識を高める事ができたと思われる。</p>



講師の名和氏



トークセッション

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

佐賀新聞
LIVE

サイバー犯罪対策 県警など6団体協定

中小企業で推進へ

2017年02月14日 09時33分



サイバーセキュリティー対策に関する締結を結んだ6団体の代表=佐賀市の佐賀県庁

佐賀県や県警など6団体は13日、サイバー犯罪対策を中小企業で推進する協力協定を結んだ。相談体制を充実させながら情報を共有し、被害の未然防止につなげる。

6団体は県や県警、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体中央会、県地域産業支援センター。

サイバー犯罪は、大企業と取引がある企業を経由して侵入を試みる手口が横行するなど、中小企業が狙われやすい傾向にあるという。このため、県地域産業支援センターに電話の相談窓口を設ける一方、県警が把握した県内外の情報漏えいの被害情報を団体間で共有し、社員らのセキュリティー意識の向上を促す。

県庁で締結式があり、県警の江口民雄生活安全部長は「各団体と連携を図り、安全に利用できるインターネット環境の実現に向けた取り組みを推進していく」とあいさつした。

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

③ICT利活用促進補助事業（実施済）

会員が実施する中期推進項目①～③に該当する事業に対する事業費補助

1)NPO法人シニア情報生活 アドバイザー佐賀

<団体概要>

「シニア情報生活アドバイザー」の資格所有者にて活動している団体。パソコンやネットワークの活用方法を高齢者に広げていくことを目的として、県内各地でシニア向け講習会等を開催



<補助対象事業の内容>

- ・県内5市町6か所において、「パソコン、インターネットのシニアお困りごと相談会」を開催
- ・1人当たり1時間前後を目途に参加受付時に内容確認の上、相談時間を予約して対応
- ・合計68名の方からの相談対応

<事業の成果>

- ・パソコン初心者(主にシニア層)の疑問に、1対1で時間をとって対応することにより、
 - ①ICT機器の楽しさ・便利さの再認識 ⇒ 「利用者層の拡大」「利用促進」
 - ②ウィルス対策等のセキュリティ対応のアドバイス ⇒ 県民のネット被害の未然防止

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

③ICT利活用促進補助事業（実施済）

会員が実施する中期推進項目①～③に該当する事業に対する事業費補助

2)NPO法人シニアネット佐賀

<団体概要>

高齢者に対して、パソコン利用の指導や、インターネットによるネットワークの形成、新たな生きがい作りに関する事業を行い、公益の増進に寄与することを目的として活動されている団体



<補助対象事業の内容>

- ①「初心者iPad講座」・・・iPad初心者が対象の基本操作講座
- ②「チャレンジPC講座」・・・シニアでパソコン初心者対象に、パソコンの基礎知識や電子メールやSNS等のインターネットの活用法を学び実践する講座
- ③「デジカメでアルバムづくり」・・・パソコン初心者を対象に、デジカメとパソコンを活用し、アルバム作りを体験する講座

<事業の成果>

・主にシニア世代にとってのiPadやスマホを「教え学び合う場」が少ない現状を少しでも改善し、シニア世代にとって、ICT利活用を通して、人と人とのコミュニケーション・市民活動の幅を広げることができた。

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

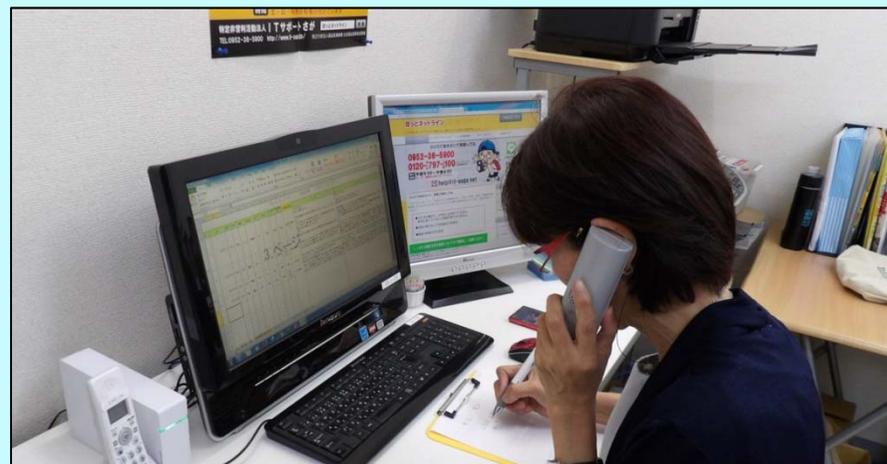
③ICT利活用促進補助事業（実施済）

会員が実施する中期推進項目①～③に該当する事業に対する事業費補助

3)NPO法人ITサポートさが

<団体概要>

インターネットを利用するすべての人を対象に、正しくICTを活用して社会をよりよくしていこうとする事業を行い、誰もが安心してインターネットを利活用できる社会づくりに寄与することを目的として活動されている団体



<補助対象事業の内容>

ネットトラブルに関する悩みを相談者に寄り添い、一緒に解決に向かい不安を拭い去るための相談窓口「ほっとネットライン」の運営。

相談は、電話・メール・LINEを使った相談者がアクセスしやすい環境を設置。
相談員は3名（交代制で最低1名は常駐）。受付時間は9:00～18:00（土日祝日は電話転送で対応）

<事業の成果>

県内はもとより全国各地からも相談（県外からの事例が、県内における適切な対応に役立っている）
相談内容は、サービスの移り変わりに応じて変化。相談事例をWebサイトに掲載したり、最新情報を提供することで、**県民のネットトラブル回避能力育成、トラブル軽減に役立っている。**

議題(1) 【報告】今年度下半期事業報告

③ICT利活用促進補助事業（実施済）

相談窓口「ほっとネットライン」への月毎相談件数及び相談内容別件数(H28年度)

【月毎の相談件数】

月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
件数	21	18	17	24	26	22	19	147

【相談内容別件数】

相談内容	件数	相談内容	件数
SNSに関するトラブル	31	個人情報に関する事	7
端末やアプリの使い方	22	情報削除に関する事	7
誹謗中傷に関する事	20	アカウント削除に関する事	6
不当請求に関する事	19	不正アプリや乗っ取り	5
LINEの使い方	13	ゲーム機に関する事	4
ネットトラブル以外	13	合計	147